

FIP IT BOX

ASP&IDCニュース

Contents / February, 2002

■ブロードバンド ブロードバンド市場の動向
FIPのブロードバンドへの取組み
～インフラ系サービス～

発行日 2002年2月28日 第14号
発行元 販売推進統括部 企画推進部
東京都江東区青海2-45 タイム24ビル
連絡先 03-5531-5120/info@fip.fujitsu.com
URL <http://www.fip.fujitsu.com/>

富士通エフ・アイ・ピー株式会社

ブロード バンド Part 1

生活が一変するブロードバンド革命

昨年の新語・流行語大賞のトップテンにも選ばれた「ブロードバンド」。今やこの言葉を聞かない日はないほどです。インターネットの常時接続が、しかも低料金で利用できるこのブロードバンドは、ほんの数年前までは考えられなかったもので、まさに今、インターネットの利用環境が大きく変わろうとしています。

ブロードバンド市場の動向

ブロードバンドとは？

ブロードバンドとは、直訳すれば「通信帯域の広いネットワーク」という意味で、大容量のデータをしかも高速で送受信することができます。ISDNなど従来の回線では、文字や写真程度の情報を送受信するのが精一杯でしたが、このブロードバンドでは、動画や音声なども快適にやり取りでき、また

双方向に且つリアルタイムでコミュニケーションを行うことができるようになります。

そしてもうひとつの大きな特徴に、安価で利用できる点が挙げられます。1985年頃の1.5Mbpsの高速常時接続では、距離により価格が異なり、月額36万円～440万円とかなり高価でした。しかし今では、月3千円程度からの安価な固定料金で利用できるようになり、通信料を気にせずEメールやホーム

ページの閲覧を楽しむことができます。

驚異的な普及スピード

ブロードバンドは、導入のしやすさなどから、まずCATV(ケーブルテレビ)から普及し始めました。ただ、数多くある全てのCATV業者がインターネットサービスを提供している訳ではなく、またそれぞれ提供エリアも限定されているため、着実に加入者数は伸びているものの、急激に増えるものでは

【ブロードバンドの概要】

高速・広帯域接続

ADSL^{*1}、CATV、iMT-2000^{*2}など、概ね256Kbps以上の高速なアクセス回線の提供

映像・音声など大容量の交換が容易

常時接続かつ安価

従来の電話やISDN接続と異なり、常時ネットワーク接続され、しかも価格も安価

使用料を気にせずWeb閲覧等が可能
回線速度：約10倍
費用：20%程度削減

インタラクティブ(双方向)

個人・企業の私設放送局やTV電話・ゲームなど、新しい利用形態が可能

コンテンツのリアルタイム度が向上
コミュニケーション等の形態が変化

*1: Asymmetric Digital Subscriber Line

*2: International Mobile Telecommunications-2000

ありませんでした。

しかし、2000年末にADSL*1と

いう既存の電話回線を利用したブロードバンド接続サービスが開始。

その後幾つものプロバイダが次々と低料金サービスを打ち出してきたことにより、昨年後半からの加入者数はうなぎのぼりとなり、2001年12月末時点の累計加入者数は、150万件を突破。開始より約1年で

CATV 経由のインターネット利用者数も抜くなど、爆発的なヒットとなりました。

ブロードバンドのメリット

それでは、ブロードバンドでどんなことが可能になるのか、もう少し詳しく見てみましょう。

インターネット・ショッピングを例に挙げると、私たち消費者が購入する時の判断材料とするのは、その製品のカタログ情報でしょう。しかし現在のそれは、文字情報が写真(静止画)が殆どです。しかし今後ブロードバンドが普及すると、これらに音声や動画が加わって電子カタログとして更に充実したものになり、商品の選択の幅も広がることでしょう。

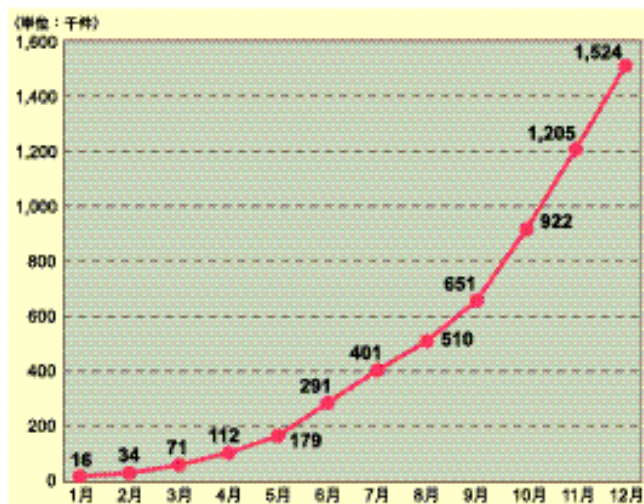
また公共サービス系でも、現在窓口に出向いている各種行政手続きも自宅や会社から申請できるようになるでしょうし、病気や身体の不自由な人は自宅にいながら遠隔医療を受けることも可能です。

さらに、家庭で使われるテレビやビデオ、電子レンジ、エアコン、風呂などが全てインターネットとつながる、いわゆる「情報家電」が現在急ピッチで開発が進められています。数年後には外出先からこれらの家電を操作できる家庭が、かなり増えてくるかもしれません。

FIPのブロードバンドへの取り組み ~インフラ系サービス~

当社では、右図のように全てのブロードバンドの局面で対応できるサービスを提供しております。今号では、まずインフラ系のサービスについてご紹介いたします。

【2001年DSL加入者数の推移(累計)】



出典：総務省ホームページ

【主なブロードバンド接続サービス】

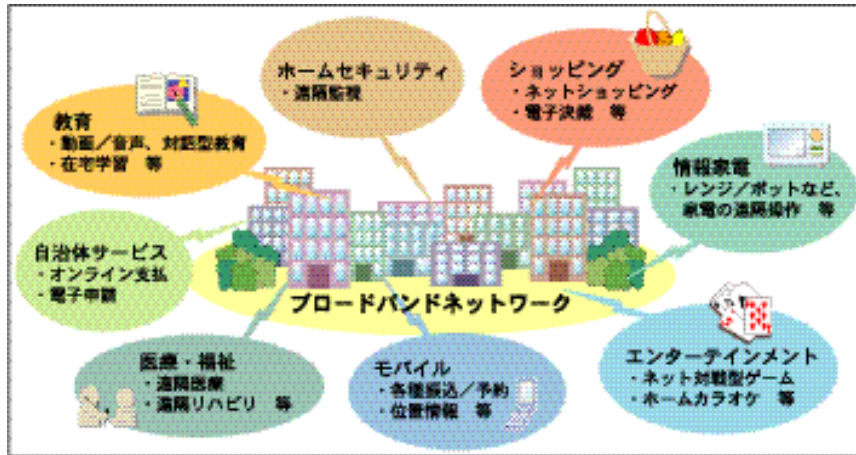
分類	特徴	伝送速度 (bps*4)
CATV (ケーブルインターネット)	ケーブルテレビのケーブルを用いて提供するインターネット接続サービス	~30Mbps
xDSL (デジタル加入者線)	一般の電話回線に特殊なモデムを付け、大容量の通信を行う仕組み。一般的なのは、ADSL	上り：16Kbps~1Mbps 下り：1.5Mbps~9Mbps
FTTH*3 (光ファイバ)	電気通信事業者と各家庭を光ファイバ・ケーブルで結ぶ、超高速インターネット接続サービス	10Mbps~
IMT-2000	2ギガヘルツ等の電波を用いて、世界中のどこでも高速データ通信ができるマルチメディア移動通信システム	144Kbps~2Mbps
第4世代移動通信システム	IMT-2000の次の世代となる携帯電話の規格。2010年頃の実用化を予定	IMT-2000の数十倍~数百倍程度

*3: Fiber To The Home

*4: bits per second 1秒間に伝送できるデータの量(ビット)。Kは1,000、Mは100万。

参考：総務省ホームページ

【日常生活での利用イメージ】



ブロードバンド IDC

当社では現在、東京地区に2つのブロードバンド機能を備えたデータセンタを所有しており、大規模なデータ処理や保管、大容量バックボーンに直結した IDC として、お客様のニーズに対応したサービスを提供しています。また、全国各地に展開する地方のセンタも、徐々にブロードバンド対応を行っていく予定です。

ストレージサービス (SSP^{*5})

インターネットによる事業の拡がりやブロードバンド化により、取り扱うデータの量が飛躍的に増加しています。そのため、データの増加や安定したアクセス(高信頼)に対応するデータの保管サービスへのニーズが高まっています。

当社 IDC では、サーバとストレージ(データの保管庫)間を接続する専用ネットワークを構築し、ストレージへの高速アクセスや大量データの一元管理など、システムの性能や拡張性を高めるサービスを提供しています。

また、ストレージサービスを提供する上で最も重要なのは、データの安全性の確保です。東京センタでは、2001年12月に情報セキュ

リティマネジメントシステム (ISMS^{*6})適合性評価制度の認証を国内最大範囲で取得するなど、センタの安全性には万全を期しており、データバックアップなど不慮の災害などからお客様の大切なデータを守る様々な対策も推進しています。

*5 : Storage Service Provider

*6 : Information Security Management System
審査登録機関 : (財)日本品質保証機構 (JQA)

マネジメントサービス (MSP^{*7})

お客様のサーバをただお預りして運用するだけでは、IDCとしての役目はまだ中途半端です。お客様の方針に基づいた適切な運用管理体制を整えて、初めてIDCとしての機能を果たせると言えるでしょう。つまり、お客様の業務が効率良く遂行できるように、サーバの状態を監視し、何か問題があった時に適切な対応ができるかが重要なのです。

当社では、お客様の Web サイトに設置されたサーバシステムやアプリケーション

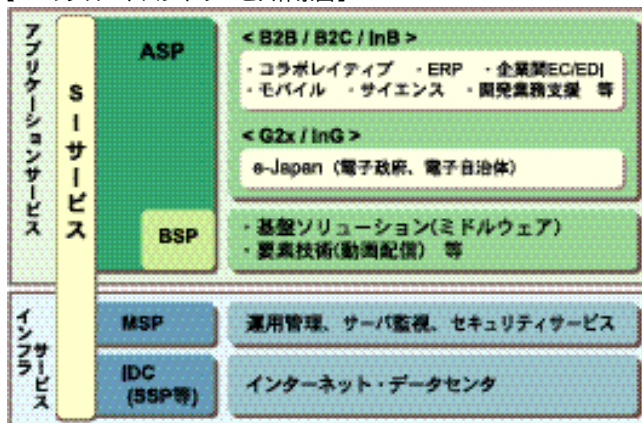
などを、ネットワーク経由で24時間 365日監視し、定期的な稼働報告、トラブル時の迅速な対応などを行います。

さらに、セキュリティ対策支援サービスとして、ウィルスや不正侵入を常時監視し、もし被害を受けた場合も適切な対応ができる体制を整えています。

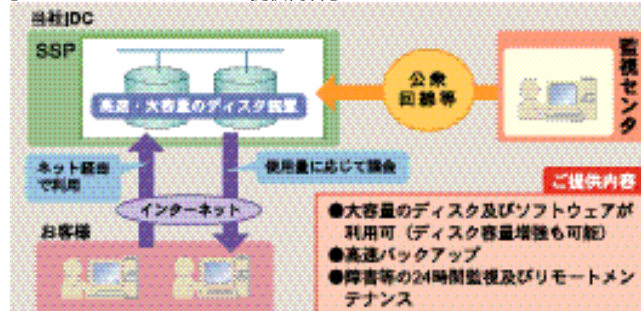
また、EC や e マーケットプレイスなどネット上でビジネスを行っている場合、サービスの中断やサービスレベルの低下が直接売上のロスに結びつきます。これら Web サイトの健康度をチェックし、サイトの性能を監視する「Web サイトパフォーマンスマネジメントサービス」も提供しています。

*7 : Management Service Provider

【FIPのブロードバンドサービス体系図】



【SSPのサービスイメージと提供内容】



【MSPのサービスイメージと提供内容】

